JUNO　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会ニュース　第158号

2020年（令和２年）１月10日　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会　発行　☆さいたま市大宮区高鼻町4－219

県内の国指定史跡について～「記念物１００年」展によせて～

埼玉県立歴史と民俗の博物館　企画担当　君島勝秀

今年は記念物保護制度が施行されてちょうど100周年にあたります。文化庁では全国の博物館施設に、特集展示「記念物１００年」事業への参加を呼びかけました。これに応じて当館では、1月2日から開催中の企画展「縄文時代のたべもの事情」に合わせて、季節展示室でパネル展示「記念物１００年」展を行っております。

パネル展示では、「記念物」のうち「史跡」を取り上げ、企画展「縄文時代のたべもの事情」に因んで、埼玉県内に所在する縄文時代の５つの史跡（うち1つは今年度中の史跡指定見込み）を紹介しています。ここではそれらの史跡を取り上げながら、その特徴を述べてみたいと思います。

史跡は、古くからその存在が注目され、学術研究を目的とした発掘調査が行われてきました。「真福寺貝塚」は大正15年（1926年）に史前学研究会の調査を皮切りに昭和40年（1965年）まで、日本考古学協会や数々の大学の研究機関による学術調査が行われ、縄文時代晩期（約3,000年前）の土器編年研究上重要な遺跡となりました。「水子貝塚（みずこかいづか）」は昭和12年（1937年）の発見以来、発掘調査が行われており、「黒浜貝塚」は、縄文時代前期中頃（約5,500年前）に関東地方を中心に見られる「黒浜式土器」の標識遺跡として学史上著名です。

「高麗村（こまむら）石器時代住居跡」は、昭和4年（1929年）に2軒の住居跡が発掘され、住居跡の発掘としては埼玉県内の初期の調査例として注目されました。調査を行ったのは、当時埼玉県内の郷土研究の先駆者である稲村旦元（いなむらたんげん）氏と、土地所有者であり地域の遺跡発掘にも尽力していた加藤喜代次郎氏ら地域の人々でした。その後、これらの住居跡は貴重な調査例として地域で守られ、戦後まもなく（昭和26年）の史跡指定につながりました。このように史跡の多くは、戦前から戦後にかけて注目され、地域の人々に守られた結果、現在に受け継がれて史跡指定に至っています。

また、史跡は戦後から現在にかけて、地域行政による計画的な確認調査が継続された結果、徐々に遺跡の性格が明らかになり、歴史遺産としての価値が高まった結果、国の史跡に指定されています。「神明貝塚」は、「縄文海進」によって形成された奥東京湾沿岸にかつて所在した縄文時代の貝塚が、現代の開発によって多数消滅していく中でも、縄文時代後期（約3,800～3,500年前）の貝塚と集落跡が周辺部の地形も含めてよく保存される希少な遺跡です。春日部市は当初からこの遺跡の重要性に注目し、長期にわたる計画的な確認調査の結果、遺跡の性格とともに歴史的な価値を総括し、国に史跡指定の申請を行った結果、今年度内に史跡指定される見込みとなりました。

「真福寺貝塚」や「黒浜貝塚」では、史跡指定後も、地域をはじめ多くの人たちに歴史遺産として、また歴史を学ぶ場として、あるいは地域の憩いの場としてさまざまに活用されることを目的に、行政による史跡整備を前提とした内容確認調査や、計画的な整備工事が進められ、「水子貝塚」では、史跡公園として集落と住居が復元整備されています。

次回の友の会理事サポーター会議：2月23日（日）10時より

今後のイベントスケジュール　＊申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。
ホームページ:http://junosaitama.net/ ブログ:http://hakutomobulog.at.webry.info/

○１月29日（水）　プレミアム講座「埼玉にもいた『狩猟採集民』」　**＜今号で紹介＞**
○２月22日（土）　古道倶楽部「第32回古道を訪ねて　日光道中」　**＜今号で紹介＞**
○２月21日（金）　円空仏研究会　**＜今号で紹介＞**
○２月23日（日）　講演会「中世武士と馬」　**＜今号で紹介＞**
○３月１日（日）　古代文化を考える会「倭人（天氏）の渡来（天孫降臨）」　＜次号で紹介＞
○３月11日（水）　プレミアム講座「妖怪談議―河童で読み解く民俗学」　＜次号で紹介＞
○３月19日（木）　見学会「人形博物館と人形工房見学」　＜次号で紹介＞

〜〜

『甲斐の国へいざ出陣！』（甲府市・甲州市）バス見学会リポート

令和元年（2019年）11月20日に開催　　39名が参加

令和元年 11 月 20 日(水)催行、参加者 39 名でした。朝 7 時 30 分、朝の寒さが染みる出発でしたが、行程中は好天に恵まれて絶好の見学日よりでした。

当日はちょうど「山梨県民の日」でしたので、午前中の山梨県立考古博物館へ無料で入館できたほか、武田神社前に今年４月にオープンしたばかりの「信玄ミュージアム」の特別展示室も常設展示室と同様に無料で見学できました。

甲斐善光寺の宝物館では特別に解説を行っていました。午前見学した甲斐銚子塚古墳では頂上に登り、雪をいただく南アルプスを背景に学芸課長さんの解説を拝聴。午後からの信玄ミュージアムや武田神社境内を案内人１名がガイドしていただきました。地声が大きいので十分聞こえました。ここの「三葉の松」は金運のご利益があるとのことで皆さん拾い集めていました。恵林寺の禅宗庭園は国の名勝に指定されていて、紅葉に映えた池が素晴らしかったです。

最後の立ち寄り場所である「シャトー勝沼」ではワイン製造工場見学と試飲、買い物をして楽しみました。家に帰ってから購入したボトルを開けておいしく飲みました。（山本　記）

クラブ活動　（活動・募集）

第31回古道探索クラブ　日光街道武里駅から春日部駅へ

令和元年（2019年）11月20日に開催　　19名が参加

今回も参加者 17 名と少数精鋭であったが天気も良くなかなか充実した探索であった。街道沿いは新興住宅地で施設は整っており生活には便利であるが、我々の求めている古道を歩きながら遭遇する歴史を感じさせる情景は少ないのではないのかとの先入観とは少し違っていた。

武里駅を出発し東武線沿いの大畑香取神社へ、江戸時代不毛の土地の押し付け合い（年貢を課せられる）に勝った祝いの＜やった踊り＞発祥の地である、境内には珍しい石造物が沢山あった、猿田彦の同体神といわれる境界神の久那戸（くなど）神の庚申塔や女性達が来世を願って建てた立派な血盆經供養塔である。踏切を渡り１列縦隊で歩き旧日光街道に合流して備後雷電神社へ、境内に富士塚と三峰神社、お堂の中に立派な絵馬が沢山飾られていた（下調べの時は氏子さんに開けていただいた、我がスタッフに絵馬の専門家がおり、その貴重さに感動していた）本番は残念ながら外から覗くだけであったが・・。浄土宗称名寺へ、三界万霊地蔵尊石仏あり、境内に祠、不思議な金精様が鎮座している、篆書体で逆さに書かれた生・心・忍・譽の文字が更に神秘さを誘う、子宝祈願・・なるほどである。ここから街道沿いは昔の面影は少なく若干退屈な歩きになった、それでも民家の中に建つ地蔵堂、面影はないが江戸より八里の一里塚跡など旧道の証拠は確認できた。このあたりから道を少し離れた右側を古利根川が流れて

新年度の「会員更新」手続きのお願い

・令和２年（2020）度友の会の会員募集を開始いたしました。現会員の皆様には継続更新のお手続きの程宜しくお願い致します。
・この会報に振替払込用紙を同封致しましたのでお近くのゆうちょ銀行にて年会費２千円をお振込ください。新しい会員証は**３月会報**に同封してお届けいたします。なお、土日に開く博物館ロビーの友の会受付、友の会主催講演会、見学会の受付にても承ります。
・新しい年度も友の会を通じて知的な博物館ライフをお楽しみください。

いる、藤塚橋という昭和 29 年まで通行料を取っていた有料橋がある。ここから先も少し退屈であったが道の起伏は無いので疲れは感じなかった、東武アーバンライン（野田線）の鉄橋をくぐると春日部（粕壁）宿も近くなる。粕壁宿の市神様八坂神社に到着、神社の建物が新しい。実は平成 22 年に放火により焼失している・賽銭泥棒による犯罪で数件放火されたのである、ここまで歩いた越谷・春日部地域の寺社の管理が厳重なはずである。

長い参道の総鎮守東八幡神社で昼食、ご神木の大ケヤキは樹齢 600 年である。日光街道の反対側にある東陽寺境内で松尾芭蕉が泊まった事を窺がわせる曽良の随行日記の新しい碑を鑑賞する。日枝神社を経由して春日部市郷土資料館訪問。学芸員さんが春日部（粕壁宿）の歴史を丁寧に解説（中略）終点の春日部駅に無事到着して本日の行程完了する、反省会も滞りなく近くの居酒屋で実施した。（寺内　記　ブログもご覧ください）

「古代文化を考える会」＝新しい視点で学ぶ日本の古代史＝

第3回「倭人（天氏）の渡来（天孫降臨）」　12月１日に開催　65名参加

「倭人（天氏）」は「衛氏朝鮮」の侵攻を受け、「高天原」から北部九州（筑前～肥前南部）へ渡来（天孫降臨）する。この「天孫降臨」とは北部九州への侵略であり、時期は「前 135 年～前 115 年」頃のことであるという。これにより北部九州では新しい文化が始まった。「銅鏡・青銅利器・勾玉の三種の神器」や「甕棺墓」等々である。北部九州は弥生時代前期が終わり、中期が始まった。「日本語」もまた彼らによってもたらされた。「天孫降臨」により「日本の歴史」の基盤が造られたと語る。この「倭人（天氏）の渡来（天孫降臨）」は遺跡とも一致するという。

・神皇「日子波瀲武鵜葺不合尊」の移住地　：　須玖岡本遺跡
・火照須命の渡来地　　：　吉武高木遺跡
・火須勢理命の渡来地　：　吉野ケ里遺跡

これらについて、『記紀』や『宮下文書』等の資料を基に語って頂きました。以下はその一部です。

１．『古事記』『日本書紀』の「天孫降臨」
『日本書紀・(一書第一)』『古事記』は共に「天孫降臨」の地を「筑紫の日向」とする。諸条件から「天孫降臨」の地は「福岡市西区の飯盛山付近」であろうという。「日向」の地名は現在もある。ただ『記紀』は共に登場人物の「系譜」や「時代」が曖昧である。

２．「倭人（天氏）」の移住（『宮下文書』）
「前 200 年」に「高天原」を建国した「倭人（天氏）」の「天孫降臨」の時期は「前 140 年～110 年」頃であり、「高天原」から邇邇藝命の子の「火照須命」と「火須勢理命」による北部九州（筑前～肥前南部）への侵略であるとする。

・　火照須命の東軍（五萬餘）・・・筑紫の東の水門＝博多湾（筑前）
・　須勢理命の南軍（五萬餘）・・・南の水門＝有明海（肥前南部）→奮撃轉闘 650 日にて先住民（縄文人）を西北方向へ撃攘。

３．「倭人（天氏）の渡来」の「検証」
・『記紀』が記す「天孫降臨」の地である「吉武高木遺跡」は弥生前期末から中期初頭にかけての特定集団の甕棺墓（34 基）、木棺墓地である。4 基の木棺墓の中では 2 号木棺墓が中心的な位置を占めるが、3 号木棺墓は両小口板で深く埋め込む組み合わせ式で、他と形式が異なる。多鈕細文鏡をはじめ、3 種 4 口の青銅利器・玉類が集中している。これは高天原に埋葬された邇邇藝命と木花之咲夜媛の墓から三種神器を取り出して同遺跡の大形建物（長井宮）で祀り，後に「3 号木棺墓」に埋葬したものであろうという。

・吉野ケ里遺跡は甕棺 14 基が発掘されているが墳丘墓の中心の甕棺墓は長さ 2.5ｍもあり、国内最大であるという。これは南の水門より攻めた副帥経津主命の墓（元帥火須勢理命は高天原に戻った。）ではないかという。更に須玖岡本遺跡の王墓は神皇「日子波瀲武鵜葺不合尊」であろうという。

４．「倭人（天氏）渡来の年代の「検証」・・・須玖Ⅰ式土器との対比等

今回の講演も古代史フアンにとって大変興味深い内容であり、時間を忘れて聞き入った 3 時間であった。次回は 3 月 1 日（日）、《渡来後の「倭人（天氏）」と「日本語」の起源》についてお話しいただく予定です。（斉藤亨　記）

中世武士と馬

馬と日本人とのかかわりから文化を考える

60年ほど前まで、物資の運搬など人びとの生活に深くかかわっていた家畜「馬」ですが、現在は、競馬や乗馬などでしか知られていません。講演では、古来より日本に存在した、いわゆる在来馬に関する基礎知識と、特に馬との関係が深かった中世・武士の時代における活用方法を中心にお話しいただきます。

（平治物語絵巻より）

講師　長塚　孝　氏（馬の博物館 学芸員）

日時 2020年（令和２年）２月23日（日）午後１時半～３時

場所 当館講堂　東武アーバンパークライン（東武野田線）大宮公園駅下車徒歩５分

参加費用 300円

お申込みは **往復ハガキ** に、①名前②住所③電話番号④イベント名⑤会員の方は会員番号―を明記。返信面に①名前②住所―を記入し、2月15日（土）までに「〒330-0803　さいたま市大宮区高鼻町4-219　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。質問・ご意見もお書きください。なお、締切前でも定員150名を超えた場合はお断りすることがあります。当日は往復ハガキの返信面をお持ちください。ホームページの連絡フォームからの応募もできます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

大混雑の高尾山で富士道を歩く―まち歩き

令和元年（2019年）11月21日に開催　　17名が参加

今回の「まち歩き」はこの高尾山で行われていた富士信仰の足跡を辿ってみようということです。参加者は17名、多くの方が参加してくれました。この日は秋晴れ、絶好の紅葉日和ということで予想はしていましたが登山口から多くの人でかなりの混雑。なるべく全員一緒に行動したかったのですが、表参道を歩きだした時点でひとり坂道を歩けそうもないということでケーブルカー駅に戻りました。薬王院までは約１時間半くらいでしょうか、なんとか全員歩きとおせました。薬王院では見事な紅葉を鑑賞できました。ケーブルカーは乗るまでに相当時間がかかるようで途中待ち合わせに変更して、一行は薬王院天狗の像付近で休憩後さらに石段を登って、不動堂裏手にある富士浅間神社に向かいます。この小さな浅間神社こそ、天文年間に北条氏康により富士北口浅間神社から勧請されたもので、これにより、高尾山と富士山信仰が結び付けられ、江戸時代以降の富士講の隆盛にともない高尾山が発展を遂げる要因となっているようです。(略)

高尾山での富士山遙拝を終えて清々しい気分で富士道を歩きなおし、あらためて浅間神社に参拝し、帰りも表参道を歩いて下山しました。(筑井　記　ブログもご覧ください)

◆第32回古道を訪ねて　日光道中その5◆

2020(令和2年)年2月22日（土）に「古道探索倶楽部」

≪日時≫2020年（令和2年）2月22日（土）　集合9時30分～解散15時30分（予定）
≪集合≫東武伊勢崎線春日部駅東口改札口周辺　9:30
≪コース≫東武伊勢崎線春日部駅　⇒　成就院　⇒　最勝院　⇒　浜島家　⇒　小渕観音院　⇒　九品寺　⇒　馬頭院　⇒　来迎院　⇒　近津神社　⇒　東福寺　⇒　解散東武伊勢崎線東武動物公園駅
≪費用≫資料代等・参加費 500円
≪その他≫歩行距離は約8km、史跡巡りを入れると9km少々です。お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。
≪問合せ先≫前日まで犬走（いぬばしり）　048－756－5634　当日　小俣（おまた）　090-3436－9017
≪参加申込み≫2月15日（土）までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号（ご自宅・携帯とも）を明記して　〒339-0058さいたま市岩槻区本丸３－８－１７　犬走東道あて　友の会ホームページ申込可
＊新シリーズ日光道中歴史散策は、東武伊勢崎線竹ノ塚駅より栗橋駅までを８回シリーズで、お届けしています。
＊今回より参加費用を300円から500円に変更させていただきます。

◆大善院･円空仏 役行者像･特別拝観◆

2020年(令和2年)2月21日(金)に「円空仏研究会」

≪日時≫2020年（令和2年）２月21日（金）午後1時30分～3時
≪集合≫ＪＲ浦和駅改札口　午後1時30分集合・出発
≪拝観≫大善院（浦和区仲町５丁目)、円空仏役行者像（写真撮影可）
≪費用≫拝観料その他　700円
≪概要≫大善院にある円空仏・役行者像を拝観します。埼玉県は他県と比べ、円空仏・役行者像が大変多く残されています。それは円空が関東修験の二大勢力の一つである幸手不動院と強い繋がりがあったことと関係しているようです。そのため幸手不動院の霞下（修験者統制の地域組織）の関係寺院には多くの円空仏が残っています。中でも円空は、修験道の開祖といわれている役行者像を数多く彫って寄進しています。浦和の大善院は天台宗寺門派で、昭和８年に岩槻の加倉から現在の浦和の仲町に移転してきました。岩槻の加倉にあった大善院は、もともと幸手不動院の末としてありましたが、明治維新の「神仏判然令」のもと多くの信者が離れ、「信徒檀徒二人」となり、やむなく浦和の仲町に移転してきました。このように、幸手不動院に繋がる大善院に円空仏・役行者像が残されています。今回は、大善院のご住職にご無理をお願いして、特別に拝観させていただくことになりました。円空仏・役行者像をぜひ拝観していただきたいと思います。
≪申込み≫「イベント名・会員番号・氏名・住所・電話番号」を記入の上、友の会ホームページの「申込フォーム」より送信フォームでお願いします。または通常ハガキに、〒337-0042　さいたま市見沼区南中野1183-10　斉藤文孝宛へお申込みください。
≪問合せ≫　090-4965-8275　斉藤文孝

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会　・　会員限定　・　プレミアム講座

埼玉にもいた！狩猟採集民

～　縄文のたべもの最新研究　～

旧石器時代や縄文時代の人々は狩猟採集生活を営んでいました。日々、人々は何を食べていたのでしょうか。埼玉県内には、その謎にせまることが出来る考古資料が豊富に残されています。貝塚や低湿地の遺跡から出土する貝や魚骨、クルミやトチノキなど人々が食べていたものを紹介するとともに、それら食料を獲得するために利用していた道具や施設についてもお話します。さらに、動物をかたどった土製品や、土器などを通して、当時の人々が自然についてどのように捉えていたのかを考えます。

講師の尾崎さんは、日本考古学（旧石器時代）がご専門。１月２日～２月１６日開催の企画展「縄文時代のたべもの事情」を担当されています。当館の考古分野の展示担当として、常設展示室第１室（考古）もご担当です。

講師　尾崎　沙羅　氏　　当館学芸員

日時　2020 年（令和２年）１月２９日（水）午後１時半～２時半

（開場：午後１時）

場所　当館講堂　　東武アーバンパークライン（野田線）大宮公園駅下車徒歩５分

参加費用　無料

ご参加のお申し込みは、通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記の上、締切：１月２２日（水）までに、下記の宛先へ。

〒330-0803　さいたま市大宮区高鼻町 4-219　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

＊郵便はがきの料金が１０月より値上げになっていますので、ご注意ください。

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

＊「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも応募できます。（返信はいたしません）

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会